

荻窪家族レジデンス

〈地域開放型シェアハウスの多世代賃貸住宅〉

正会員 ○連 健夫*
正会員 澤岡 詩野**

* (有) 連健夫建築研究室 AA大学院優等学位、工学修士
** (財) ダイア高齢社会研究財団 博士(工学)

Ogikubo Family Residence

〈Rented Housing for Elderly with meaning of Shared house and open to local〉

○ MURAJI Takeo*
SAWAOKA Shino**

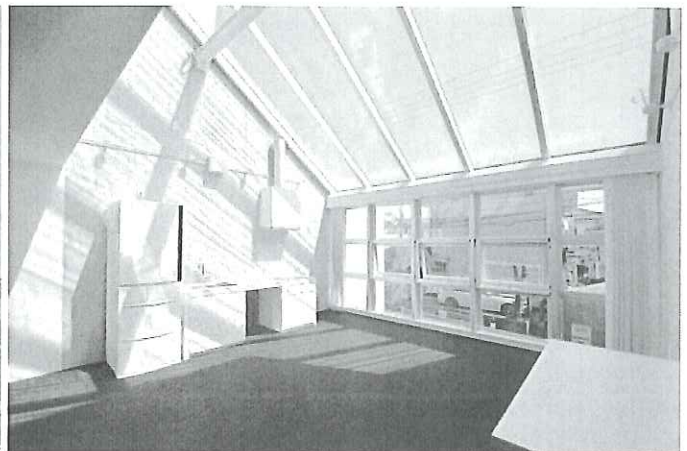
* Muraji Takeo Architectural Laboratory, AA Grad.Hons.Dipl.ME
** The Dia Foundation for Research on Ageing Societies Dr Eng.

■経緯・建物概要

荻窪家族レジデンスは、新しい高齢者居住を考慮した地域開放型賃貸住宅であり、能動的に何かを協働するというシェアハウスのアイデアを持っている。施主（瑠璃川正子氏）は、自身の両親の介護経験から、既存には理想の施設が無いとの想いから、高齢者の研究者・澤岡詩野氏等の協力者と共に数年に渡って実現のアイデアを練ってきた。自宅とアパートの老朽化の建て替えを契機に具体化し、利用者参加のプロセスで設計が進められた。設計に当たっては、施主夫妻のコラージュからヒントを得ることや、興味・関心を持つ賛同者とワークショップ（以下WS）を実施することにより、設計内容を深めると共に、参加のプロセスを通し人の繋がりを広げることにも留意した。この中で共有部分を充実させること、地域に解放する工夫、荻窪の街並みへの配慮が求められた。工事着工後においては、共用部分のインテリアを利用者のニーズに合ったデザインにするために、興味・関心を持っている方を募りWSを実施し、仕上、什器、家具、色彩計画などのデザインを調整・修正する「事前リノベーション」※1を実施した。施工への参加機会としては、タイル配置WS、壁天井の塗装WSとウッドデッキづくりWSを実施した。



荻窪の街並みに配慮すると共に、1階外周部にウッドデッキや庭、駐車場など有効なスペースを設けることが求められた。



2階居住者用ラウンジは居間的な場、キッチンがあり、多様な利用が期待できる。トップライトには貯留した雨水を散水し冷房負荷を下げると共に、癒しの効果を期待した。

■設計時の利用者参加

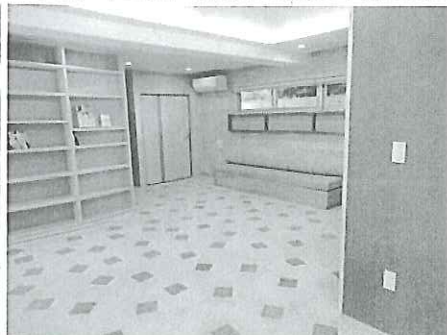
- (1) 施主のコラージュからのヒント出し（2012年9/6、施主と協力者1名）
施主の作成したコラージュからのデザインキーワードは、「開かれた場、人の繋がり、地域、ルーツ、終の住処、安心、安全」などが挙げられた。（それらを元に基本設計に進む）
- (2) 施主・協力者とのミーティングと複数案からの選択（2012年10/25、施主夫妻と協力者3名）
3案の提示と検討を行った。この中でオーナー宅の専用階段は不要、専用浴室は不要で3階に共用浴室を利用することが明確化された。共用部分として、居住者ラウンジ、地域開放ラウンジ、大工や裁縫などができるアトリエ、子育て支援や保健相談室ができる集会室が必要諸室となった。（その後、施主との打合せにより1案を選択）
- (3) 意見交換会とタイルの絵付WS（2013年7/7、参加14名、8/3、参加16名）
興味関心のある方々を募り設計案の説明と意見交換を行う。併せて玄関及び共有ラウンジの床に貼るタイルの絵付WSを陶芸家の指導で実施した。（その後月1回のペースで意見交換会とタイル絵付WSを続け、意見交換会は5回、タイル絵付WSは11回の実施）

■施工時の利用者参加（2013年12月1日着工、2015年2月27日引渡）

- (1) 事前リノベーションワークショップ（2013年3/23：参加者30名、4/20：参加者21名、9/21：参加者23名）
第1回は共有部の使われ方の可能性を探るWSを実施、第2回は具体的なイベントやプログラムを考え、それに合ったインテリアを提案するWSを実施、第3回は模型を元にデザインを深めるWS、第4回はキャラクターを設定した登場人物を使い1日の生活ストーリーを作るWSを実施した。※2
- (2) タイル配置ワークショップ（2015年1/15：参加者9名）
絵付したタイルを玄関ホールと共有ラウンジの床にランダムに配置するWSを実施した。
- (3) 塗装ワークショップ（2015年3/8：参加者21名）
各部屋のシナ合板の壁、建具や窓枠の木部に桐油の塗装、廊下の腰壁のシナ合板にグラデーションの着色塗装を実施した。
- (4) ウッドデッキづくりワークショップ：（2015年3/14、15：参加者8名）
1階アトリエの前にウッドデッキを作った。1日目に木工事、2日目に塗装工事を実施した。



1階集会室は保健相談、子育て支援など多様な利用が想定され、鏡や黒板壁を配している。



1階ラウンジはサロンのような場。床は絵付WSのタイルが乱張られている。



各住戸は2.5㎡、コンパクトなワンルーム形式、全てのプランは異なる。

※1 事前リノベーション：既に設計されているものに対して、その内容を良くする改変をすることで、完工前の工事中において、利用者の隠れたニーズをワークショップなどで顕在化させ、デザインを調整・修正することにより、完工後に生じると予想される要望やクレームを前もって解決するという側面を持つリノベーション。

※2 共有部分のインテリア設計・プロモーション業務としてツバメアーキテクトが着工後に参加した。

所在地：東京都杉並区荻窪4-24-18

主な用途：集合住宅

敷地面積：619.21m²

建築面積：367.19m²

延床面積：765.10m²

キーワード：高齢者住宅、シェアハウス、地域開放、多世代

Location : 4-24-18, Ogikubo, Suginami-ku, Tokyo

Main Use : Collective Housing

Site Area : 619.21m²

Building Floor Area : 367.19m²

Total Floor Area : 765.10m²

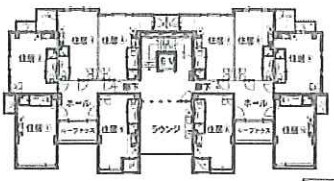
Keywords : Elderly housing, Shared house, Open to local, Multigeneration

■設計意図

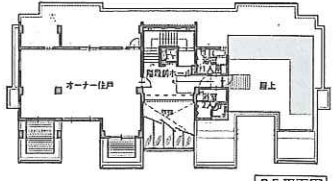
地域に開かれた賃貸共同住宅、シェアハウスのようなアイデアを持つ高齢者居住という趣旨から、各住戸「私」から共用部分「公」へ段階的に各スペースを配置することとした。2階の各住戸からホールへ、そして居住者共用ラウンジへ、1階に降りて共用ラウンジ、アトリエ、集会室、そして外部のウッドデッキや庭という空間構成である。3階にはオーナー住戸と共用浴室を配している。屋上庭園も外部のゆりのスペースとしての利用が期待できる。各住戸は25㎡で、シャワー、洗面、トイレをセットにまとめ、ミニキッチンと収納を配したコンパクトなワンルームとし多様なテナントに対応している。すべてのプランは異なっており、また壁の仕上げも変えるなど多様性を持たせている。2階ラウンジは吹抜けとし、ガラスのトップライトで明るい空間である。キッチンを設けており、時には共同で料理、食事することなどが想定されている。



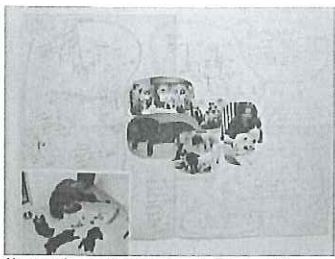
1F平面図



2F平面図



3F平面図



施主の想いが表現されたコラージュ



月に1回程度で行うコアミーティング



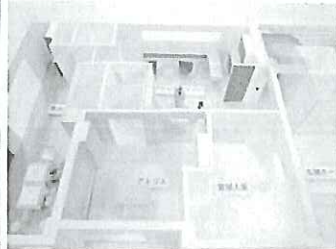
タイルの絵付けワークショップ



新しい高齢者居住をテーマにしたシンポジウム



共用部の事前リノベーションWS



リノベーションによるインテリア模型



塗装WSでの桐油塗装



ウッドデッキWS

■運営や組織

オーナーを含む主要協力者により月に1回程度のコアミーティングを実施し、様々な課題の検討をしている。当初は類似事例が少ない建物であるがゆえに、どのようなコンセプトにするか、どのように賛同者を増やすか、テナントをどのように募るか、共用部分の使い方や使用できるメンバー制をどうするか等が検討事項であった。その中でクラウドファンディングによるイベント企画やアイデアを深めるためのシンポジウムの企画なども実施してきた。今後の子育てサロンや保健相談室、勉強会などのプログラムや運営の具体的な検討がなされている。建築やインテリアについてはWSを通して形ができてきたが、運営や組織の在り方についても常に話し合いの中で決めていくという現在進行形が特徴となっている。プログラムと建築デザインとの関係を大切にしながら進め方において、打合の回数は多くなる。トータルで施主の打合は45回、コアミーティングは27回、WSは15回、シンポジウムやイベント、勉強会は31回に及んだ。

| 設計 工事 (計27回) | 2012 | | 2013 | | | | | | | | | | 2014 | | | | | | | | | | | | 2015 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|-------|-------|------|------|------|------|--------------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-----|------|------|------|--|
| | 基本計画 | 基本設計 | 実施設計 | | | | 見積・コストコントロール | | | | | | 監理 | | | | | | 上棟 | | | | | | 引渡 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 9/1 | 10/1 | 12/1 | 契約 | 9/29 | 10/1 | 1/16 | 1/24 | 2/26 | 3/12 | 3/26 | 4/17 | 4/30 | 5/14 | 5/28 | 6/12 | 6/25 | 7/8 | 7/23 | 8/6 | 8/20 | 9/3 | 9/17 | 10/1 | 10/15 | 10/29 | 11/12 | 11/26 | 12/10 | 12/24 | 1/7 | 1/21 | 2/4 | 2/18 | 2/27 | | | | | |
| 施主 打合 (計45回) | 9/6 | 11/20 | 1/12 | 3/24 | 4/18 | 5/20 | 7/2 | 7/17 | 8/28 | 9/29 | 10/1 | 1/16 | 1/24 | 2/26 | 3/12 | 3/26 | 4/17 | 4/30 | 5/14 | 5/28 | 6/12 | 6/25 | 7/8 | 7/23 | 8/6 | 8/20 | 9/3 | 9/17 | 10/1 | 10/15 | 10/29 | 11/12 | 11/26 | 12/10 | 12/24 | 1/7 | 1/21 | 2/4 | 2/18 | 2/27 | | |
| 役所 (計7回) | | | | 3/13 | 4/24 | 5/14 | 8/6 | 9/18 | 10/1 | | | | | | | | | | | | | | 8/6 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2/23 | 25 | |
| コア ミーティング (計27回) | 10/25 | 2/22 | | 6/12 | 7/6 | | 7/17 | 8/28 | 9/18 | 5/16 | 11/21 | 12/9 | 2/4 | 3/4 | 4/7 | 5/8 | 6/10 | 7/10 | 8/12 | 8/27 | 10/10 | 11/11 | 11/12 | 1/13 | 2/6 | 3/4 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ワーク ショップ (WS) (計15回) | | | | 5/25 | | | 7/7 | 8/3 | 9/28 | 11/17 | 12/1 | 1/25 | 2/23 | 3/23 | 4/20 | 5/31 | | | | | | | 9/21 | 1/15 | 3/8 | 3/14 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | |
| シンポ ジウム イベント 勉強会 (計31回) | | | | 5/12 | 7/7 | 8/31 | 8/5 | 研究会 | | | | | | | | | | | | | | | 7/27 | 8/6 | 8/6 | 8/6 | 10/16 | 11/5 | | | | | | | | | | | | | 3/22 | |

全体スケジュール

※ちよこつ塾：講師を招き様々なテーマで行う少人数勉強会、ふらっとお茶会：特に目的を持たずに行う少人数のお茶会

地域が行き交う多世代居住の新たな可能性

(公財) ダイヤ高齢社会研究財団 澤岡 詩野

■はじめに

高齢者のみが住まう老人ホームやサービス付き高齢者住宅ではない。若者世代を中心に浸透しつつある入居者同士の交流を大事にしたシェアハウスでもない。多世代が共住し、かつ、住宅内でコミュニティが完結するのではなく、地域の一部として交わり合う住まい方。これらを兼ね備えた住宅を探してみると、今の日本ではなかなか見つからないのが現状です。

そんな住まい方でできる住宅がないなら、行政や公的支援に頼らず、自らの手でつくってしまおうという取り組みが、今回、ご紹介する「荻窪家族レジデンス」と「笑恵館（しょうけいかん）」です。

■「荻窪家族レジデンス」という住まい方



建物外観

東京都杉並区の荻窪駅から徒歩7分ほどの古い閑静な住宅街に「荻窪家族レジデンス（以後、荻窪家族）」があります。荻窪家族の周辺は、邸宅が建ち、プライバシーを重視する住民の多く住む、杉並区内でも高齢化率の高い地域です。ここにオーナーの瑠璃川正子氏のご両親が住み始めたのは1949年でした。200坪の敷地内には、庭には柿や梅の木が植えられ、家族で耕す畑がありました。その後、この畑は、木造賃貸アパートと駐車スペースに姿を変えていきます。ご両親は、瑠璃川氏と姉妹の支えを受けて、この地で長寿を全うしました。この時期に瑠璃川氏は、配偶者のご両親の介護も担うのですが、ここで実感したのは、公的な介護サービスの限界と、本当に困った時の支えは、地域内外に広がる多様なつながりであるという事でした。この経験は瑠璃川氏の人生観に大きな影響を与え、

住み慣れた家で生活し、人生を全うする為のつながりの在り方を模索するようになります。これを瑠璃川氏は「百人力」と呼び、「百人力の生まれる住まい」がその後展開する荻窪家族の設立理念となります。

介護保険制度の専門家でもある全国マイケアプラン・ネットワーク代表の島村八重子氏らと共に、宮崎県にあるホームホスピスやケアタウン小平などの先駆的な取り組みを見学すると同時に、杉並区の市民大学「すぎなみ地域大学」や講座を受講し、徐々に想いを具体化していきます。この時期に、高齢期のまちづくりの研究者（筆者）や施主の想いをコラージュなどの手法で形にする建築家の連健夫氏に出会い、2年以上にわたり、有志で何度も意見交換の会を繰り返します。さらに、建物として設計案が具体化した後には、荻窪家族に関心をもつ地域内外の人々に呼びかけ、住まい方、使い方のワークショップ、地域解放スペースの床に敷くタイルの絵付けワークショップなど、住ま



1階地域開放スペースラウンジ



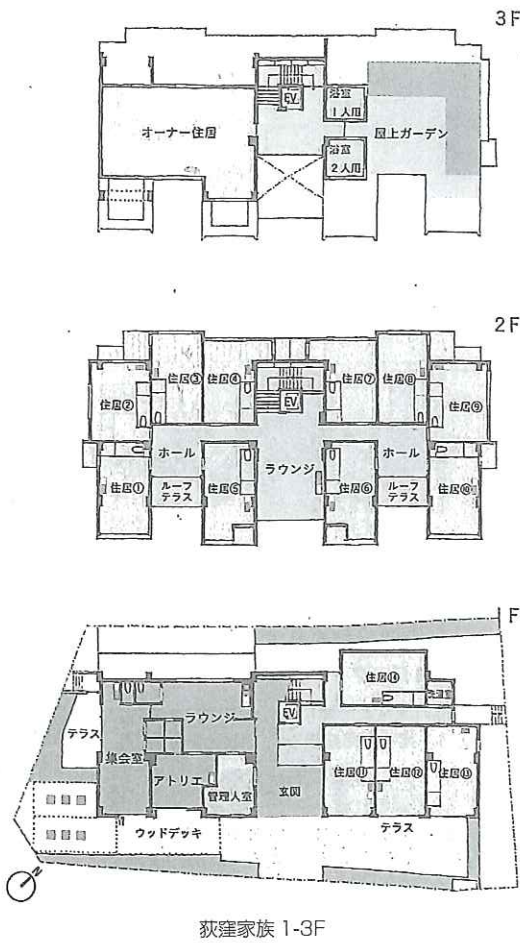
1階地域開放スペース集会所

特集：高齢期の暮らしと住まい

い手だけではなく、使う人を巻き込む為のイベントを定期的に開催していきます。こうして、地域に解放された空間をふんだんに備えた多世代向けの集合住宅としてのハード・ソフトができあがっていきました。

の保健室」の在り方を模索しながら月4回開設しています。この他にも、毎週火曜日には、瑠璃川氏の関わってきた子育て支援の活動が行われ、この日には子どもの元気な笑い声が住宅内に響きます。

これらの1階の半分近くを占める地域開放スペースでの取り組みは、メンバー制の「百人力サロン」の事業として行われています。サロンのメンバーには、地域内外の想いに賛同する人々と入居者で構成され、このメンバーとしての権利も、家賃に含まれています。月額15万円前後の家賃には、この他に1DKの居室(25㎡+ベランダ：1階に4戸、2階に10戸)、入居者専用スペース(約165㎡：共用キッチン、ラウンジ、屋上、浴室、洗濯室など)の賃料、共益費・設備費などが含まれます。4月末の本格的なオープンから数か月、レジデンスの3階に住むオーナー夫婦の地道な努力もあり、新築の住まいとしてスタートした「荻窪家族レジデンス」は、試行錯誤を繰り返しながら、徐々に、地域に浸透しつつあります。



1階地域開放スペースラウンジ
ちよこっと塾



1階地域開放スペース集会室
子育て支援



2階居室



2階居住者専用リビング

瑠璃川氏が地域大学や講座、ワークショップで出会ったつながり、そのまたつながりは、荻窪家族の運営メンバーや強力な地域の支援者として活躍するようになっていきます。現在、このメンバーが主軸になって行われている取り組みに、「ふらっとお茶会」「ちよこっと塾」「荻窪暮らしの保健室」が挙げられます。「ふらっとお茶会」は荻窪家族の住まい方や使い方を気軽に意見交換できる場、「ちよこっと塾」は地域で豊かに暮らし続ける為の知識を学べる場として、地域開放スペースの集会室やラウンジで定期開催されています。また、「荻窪暮らしの保健室」は、新宿区の戸山ハイツで始まった、ちょっとした不安を気軽に医療や介護の専門家に無料で相談できる「暮らしの保健室」をモデルにした取り組みです。看護師、社会福祉士、理学療法士、医師など多様な地域内外の専門家がボランティアとして関わり、荻窪家族らしい「暮らし

地域特性に応じた「暮らしの保健室」の在り方を考える 荻窪家族プロジェクトを事例として

はじめに

「住み慣れた地域で自分らしく年を重ねていく」。このためには、病院や地域包括支援センターなどの専門機関の存在が重要なことはいままでもない。しかし、地域で暮らす中で大切な事は、重篤化・深刻化する前の段階。子どもから高齢者までが抱える日常生活におけるちょっとした不安を、気軽に近所で解決できる場が求められている。本レポートでは、孤独死・孤立死が問題視されていた東京都新宿区戸山ハイイツで始まった「暮らしの保健室」¹⁾をモデルに、東京都杉並区荻窪で開設準備が進む「荻窪暮らしの保健室」について紹介する。

「暮らしの保健室」とは

高齢化率が45%を超え、一人暮らしの多く住む新宿区戸山ハイイツ。この地で2011年9月に開設された地域の高齢者の集う「暮らしの保健室」が、全国から注目を集めている。保健室を開設したのは、20年間にわたって都内で訪問看護を続けていた秋山正子氏。保健室には、看護師や薬剤師、ボランティアなどが常駐し、薬の飲み方、介護相談、健康や生活にかかわる多様な相談に乗っている。この保健室の特徴は、医療機関のように、来訪者の全てが最初から困りごとや悩み事の明確な人ばかりではないことである。お茶が飲める、お喋りができるという噂を聞いてふらっと立ち寄る人が、世間話をしていくうちに、不安を打ち明けてくれることも少なくないという。

日常生活の不安を聞き出し、公的機関と連携して、地域で住み続けられるための手助けをすることを目指す暮らしの保健室には月に延べ200名を超える住民が訪れている。現代版の井戸端会議や銭湯のように気軽に寄り合えるオープンな地域の居場所づくりを目指す「暮らしの保健室」のミッションに賛同し、同様の取り組みを展開しようという動きが各地域で広がりつつある。

地域とつながる住まい方「荻窪家族プロジェクト」

2010年10月、地域でゆるやかにつながり、障がいの有無や年齢に関係なく、誰もがより元気に暮らすことを可能にする住まい方を実現させるべく「荻窪家族プロジェクト」²⁾がスタートした。このプロジェクトを立ち上げたのは、両親の看取りを通じ、既存の介護や医療の仕組み、家族頼みになりがちな介護の在り方に限界を感じた瑠璃川正子氏。

福祉、まちづくり、地域の団体、公的機関などとの意見交換を繰り返した結果、自宅を建て替え、地域の人が集い、地域と住民がつながれるコミュニティスペースと、住人同士が家族の様に触れ合える共用空間を併せ持つ賃貸住宅「荻窪家族レジデンス」の建設を決意する(2015年3月竣工)。

このプロジェクトでは、そこに住まう、そこに集う誰もが、自分らしく暮らせるためのつながり、「百人力」が得られることをミッションに掲げている。現在、このミッションに賛同する地域の住民、建築・まちづくり、地域メディア、福祉職、介護職、医療職、行政書士、学生など、多様な人々が立場を超えた「荻窪家族」の一員として、これを実現



(写真1) 住まい方を考えるワークショップするための仕組みづくりを模索している。(写真1)

荻窪の地域特性に応じた「荻窪暮らしの保健室」

この仕組みの一つが、先にあげた暮らしの保健室をモデルとした「荻窪暮らしの保健室」である。瑠璃川氏は、これまで新宿の暮らしの保健室や勉強会に通い、開設に向けた方向性を検討してきた。この過程の中で、地域医療に対する理

解のある看護師などの専門家が加わり、2014年には看護師、社会福祉士、理学療法士らが発起人となり準備



(写真2) 2013年7月に実施した「隣人祭り」

会が設立され、荻窪の地域特性に適した保健室の開設にむけて準備を進めている。

これまでの活動は、大きく4つに分けられる。

□隣人祭りの開催

「荻窪暮らしの保健室」の母体となる荻窪家族プロジェクト立ち上げに際し、レジデンスの建設地を、地域の誰もが行き交う居場所としていくこと、プロジェクトに関わる地域内外の人を増やしていくことを目的に、2012年から、敷地の駐車場で、隣人祭りを開催してきた。プロジェクトへの理解を得る為に、隣人祭りに訪れた人々に、概要を説明する瑠璃川代表。(写真2)

具体的には、一人暮らしや高齢者のみ世帯、近隣とのつながりに消極的な住民の多い荻窪地域の特性を受け、自宅に余っているモノ、自分の得意な何かを持ち寄り、物々交換を行うことで、人と人がゆるやかにつながれることを目指した。物々交換で顔見知りも増えるという「わらしべ長者」式の隣人祭りは、多くの注目を集め、雑誌「ソトコト」などからの取材もあった。

□「ふらっとお茶会」と「チョコっと塾」の開催

荻窪暮らしの保健室を具体化していく為の準備として、2014年から、ふらっとお茶会、チョコっと塾を開催してきた。

「ふらっとお茶会」：ふらっと気軽に、お茶を飲みながら、日ごろの想いや考えを意見交換できる場創りを目的に、月2回開催。これまで、地域内外から、多様な背景をもつ人々に参加を頂き、荻窪家族プロジェクトを共に考え、「荻窪家族レジデンスでどんな住まい方が可能か?」「どんな地域の拠点としての使い方が可能か?」を話してきた。

「チョコっと塾」：地域で自分らしく生き、年を重ねていく

為に必要な知識を学び、自己決定の知恵を身につけることを目的に、月1回開催。これまで、健康、経済、地域を知るところをテーマに、専門家からのレクチャーの後は、質疑応答を通じて、参加者同士が知り合う場ともなっている。講師となる専門家は、「荻窪暮らしの保健室」でも、専門家として相談や講座の講師として活動する予定。

□荻窪暮らしの保健室の開設に向けた勉強会の開催

隣人祭り、ふらっとお茶会・チョコっと塾から考え方に賛同した人々と、新宿区戸山ハイツの暮らしの保健室の見学や、暮らしの保健室代表の秋山氏の講演会への参加、地域包括支援センターの職員などからの荻窪地域で開設するうえでの課題について情報収集を行っている。このメンバーの中から、事業の主要な運営者が生まれつつあり、著者も老年社会学の専門家として参画している。

今後は、秋頃まで、レジデンスの1階にある交流スペースで、「ふらっとお茶会」をベースにした保健室を週1回ペースで開催していく。この間には、地域の人々への認知度を高めること、ニーズの把握、専門家や地域のボランティアを増やすこと、地域包括ケアセンターなどとの連携の仕組みの構築を重点的に行い、9月からの本格始動を目指していく。

「暮らしの保健室」の可能性

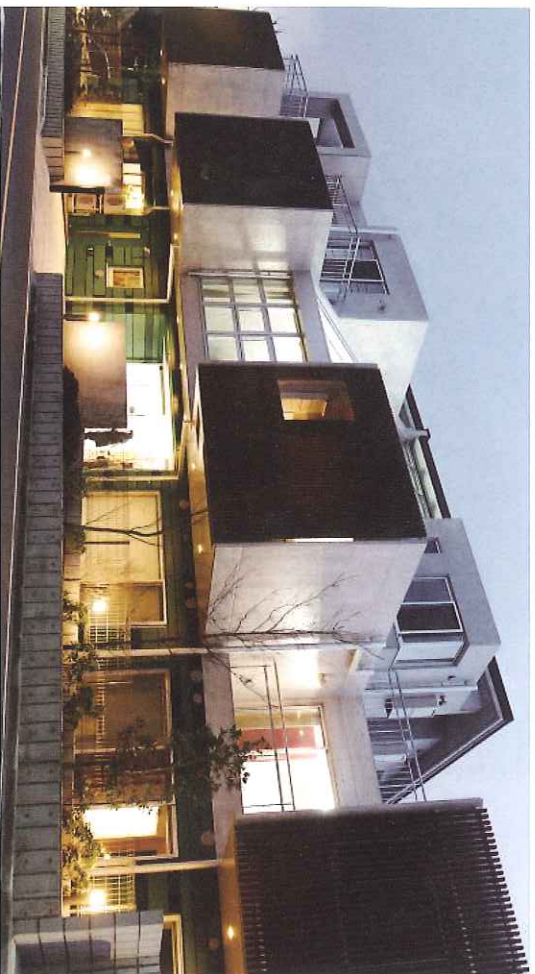
介護保険制度の改定、地域包括ケアシステムの再構築、在宅での生活を最後まで続けるための地域づくりなどが課題視されるなかで、重篤化・深刻化する前の段階を想定した暮らしの保健室への期待は高まっていくことが考えられる。しかし、これを具体化していくのは容易なことではない。

専門家やボランティアが揃い、公的な認知度も高い戸山ハイツでの取り組みを、そのまま各地域で真似するのではなく、保健室を利用する住民や運営に関わる人材など、地域の特性に応じた在り方を模索することが求められる。荻窪での挑戦はその一つの先駆けと位置づけられ、今後も継続して参画することで、課題と可能性を明らかにしていきたい。

(研究部 主任研究員 澤岡 詩野)

<参考文献>

- 1) (株) ケアーズ 白十字訪問看護ステーション
(<http://www.cares-hakujuji.com/services/kurashi>)
- 2) 荻窪家族プロジェクト
(<http://www.ogikubokazoku.org/>)



所有者：(有) 荻窪不動産 / 運営・管理：(有) イノス / 建築設計・監理：(有) 連健夫建築研究室
 構造設計：(株) 造研設計 / 設備設計：(有) 鳥津設計 / 施工：(株) 岩本組
 共有部インテリア設計、プロモーション業務：(株) ツバメアーキテクト 「荻窪家族」で検索

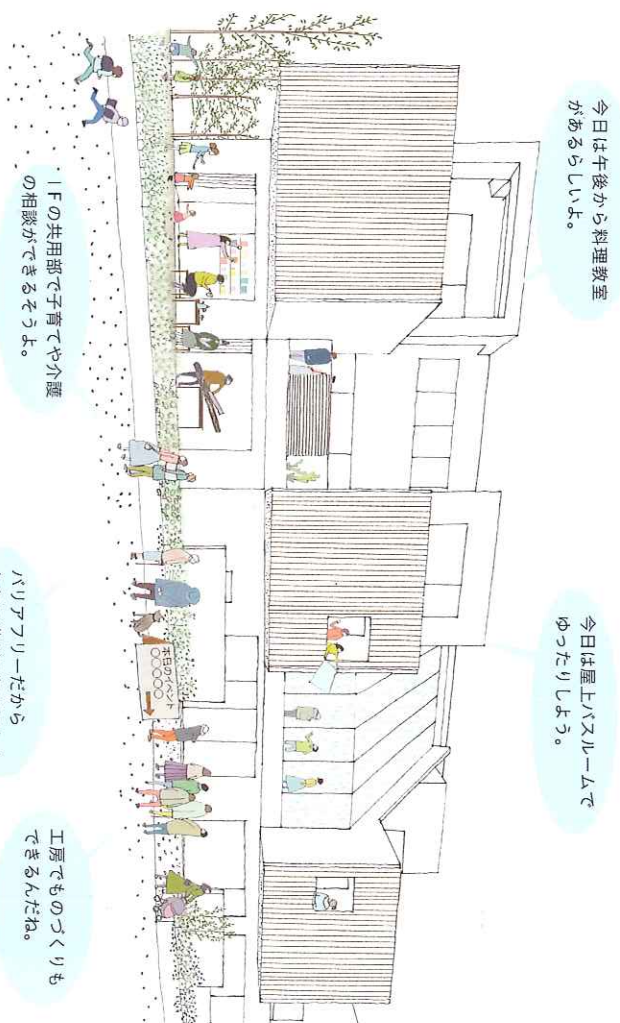
〈お問い合わせ〉 荻窪家族プロジェクト <http://www.ogikubokazoku.org/>
 MAIL : ogikubokazoku@gmail.com FAX : 050-3730-6872
 Facebook : <https://www.facebook.com/groups/ogikubokazoku/>

住む人、使う人と一緒に考え、つくっていく暮らし

荻窪家族レジデンス

地域に開くコミュニティ型すまい

入居者募集中！
 百人カサロン
 メンバー募集中！



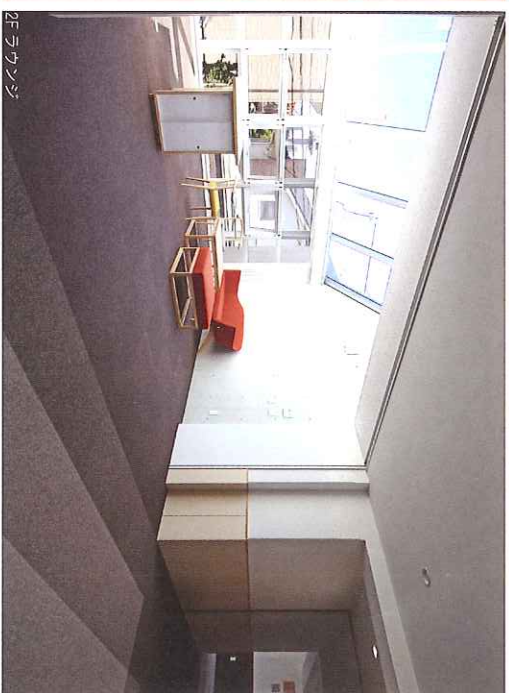
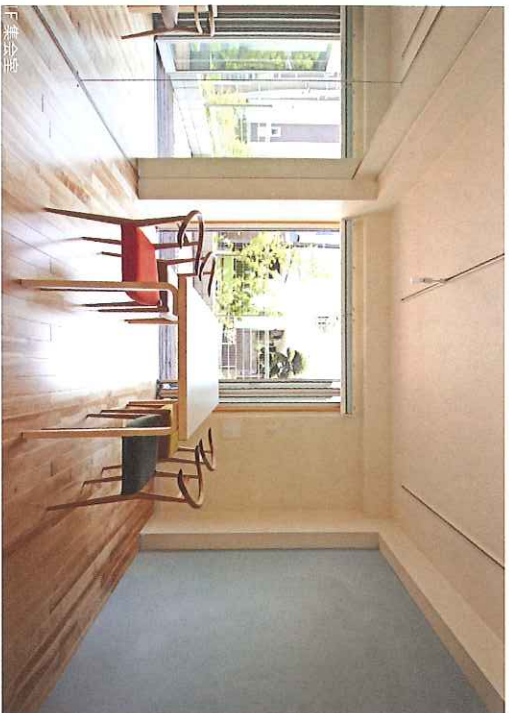
今日は午後から料理教室
があるらしいよ。

今日は屋上バルコニーで
ゆったりしよう。

1Fの共用部で子育てや介護
の相談ができるそうよ。

バルコニーだから
気軽に遊びに行けるわ！

工房でものづくりも
できるんだね。



〈狹窪家族プロジェクトとは?〉

狹窪駅から徒歩7分、地域の人が集う工房・ラウンジ・集会室などの共用スペースを持った新しい賃貸住宅が誕生します。
多世代居住の中で、住む人使う人と一緒に考え、つくっていく暮らしがあります。小さな子ども、若者や留学生、年配者、皆が地域の中で大きな家族のようにふれあい、年月を重ねてますます魅力的に生きる「成熟していく暮らし方」の提案です。

〈入居者と地域の人で一緒につくっていく場です。〉

狹窪家族プロジェクトは、みんなですつくる参加型の賃貸住宅プロジェクトです。
建物の一部を地域に開き、活かしていきけるような場を、目指しています。一緒にこの場所を活用したり意見交換しながらつくっていく仲間になりませんか?



狹窪家族プロジェクト代表
細嶋川正子

〈狹窪家族プロジェクトの使い方〉

入居者や地域の人々と一緒に、使い方を考えていきます。まずはお気軽にお問い合わせください。



AIコモド



狹窪暮らしの保健室



カットデッキつくり



入居者歓迎会



定期的なミーティング



バザー